



石川県

つながりに気づく、つながりを築く

～ふるさと伏見川を守り続けるためには～

基にしたモデル的なプログラム	ふるさとのきれいな海を守ろう!
作成団体	環境ボランティアサークル亀の子隊
実証協力校等	金沢市立三馬小学校
SDGsの要素	  
ESDの要素	   相互性 連携性 責任性
能力／態度	   未来 多面 関連

● プログラムの概要

三馬小学校では、毎年市役所からサケの卵をもらい、育て、学校近くの伏見川に放流している。伏見川は児童にあまり親しみのない川である。「伏見川にサケを放流して大丈夫なのかな」。児童の疑問から授業はスタートする。伏見川はきれいな川なの？、昔と違うところはどこ？、上流・中流・下流の状況はどう違うの？、地域の人には伏見川をどう思っているのだろうか？、児童の調べ学習が進む。森林組合、漁業組合の人にインタビューに出かけたり、森や海に行ったり、映像を見たり、そして児童は気づく。「人間と川、川の生き物はつながっている。伏見川を石川県NO.1の川にしたい」。児童が作成した自慢の「伏見川宣言」。伝えたくなる、何かをしたくなる授業である。

● プログラムの目標

1. 伏見川を守り続けるために、森林、水生生物、防災とのつながりについて、自分なりの問題意識を持つ。
2. 自然の様子を調べたり、自然を守り続ける人の話を聞きながら、友達と協力して収集した情報を分析し、活用する。



生きものと人間、どっちが大切？



もっと川に親しんでほしいぞお！



こんな伏見川にしたい！

● 参加者の声

- 伏見川が好きで、みんなで「石川No.1の伏見川にしよう！」って言って、みんなの思いがたくさんつまっている川。
- 伏見川はなくてははいけないと思います！この地域が豊かなのは、伏見川から水をもらい、畑と田んぼができ、暮らしに役立っているからです。
- 伏見川は10年後も20年後も愛される川になってもらえる川になってほしいし、生き物がいるからすごく大切だと思います。

• プログラムの流れ

1時間目	伏見川は「サケの放流」ができるくらいきれいな川なのか
2時間目	川の水質調査 川の上流・下流のつながりを知る
3時間目	「サケを放流しても良いか」を明らかにする
4時間目	ふりかえり「ふるさと伏見川を守り続けるために何ができるか」考える
5時間目	森林見学 上流、森林と伏見川のつながりを調べる
6時間目	伏見川と地域の人をつながり調べる
7時間目	「伏見川を守り続けるために何ができるのか」を考える
8時間目	地域の人々の伏見川に対する思いを知る
9時間目	話し合い「伏見川を石川No.1の川にするには」
10・11時間目	発表会準備
12時間目	学習発表会